

小国町消防団

令和3年度 新体制紹介

令和3年度小国町消防団辞令交付式が4月11日、おぐに開発総合センターを会場に挙行され、新入団員16名に辞令書が手渡されました。9分団20部40班体制の団員総勢351人のかたがたが地域を守るため、活動します。



令和3年度小国町消防団辞令交付式



団長 佐藤義昭



副団長
山口誠一



副団長
金沢誠



本部分団長
今野貞治
【小国町全域】



第1分団長
丹俊彦
【小坂町地区】



第2分団長
伊藤明芳
【町岩西・東地区】



第3分団長
加藤義弘
【東南部地区】



第4分団長
伊藤佳久
【北東部・北東部東地区】



第5分団長
金和彦
【沖庭地区】



第6分団長
和田修一
【北部地区】



第7分団長
佐藤道明
【南部地区】



第8分団長
須貝公一
【沼沢・東部地区】

【 】内は担当区域

未来に伝えたい

白い森おぐにの

文化遺産

その1 はじめに

雄大な飯豊・朝日の山々に囲まれたこの小国では、先人たちの幾世紀にわたる努力によって数多くの集落がひらかれてきました。そのなかで、ときには自然災害や疫病、あるいは戦乱など大きな社会変動に見舞われながらも、互いに助け合い、集落や家の安寧(あんねい)をともに祈り、そして四季折々、自然の恵みを利用する暮らしが各地で引き継がれてきました。

その長い歴史のなかで生み出された様々な文化遺産。それは、例えば、仏像や石碑、祠、各種美術工芸品など有形の文化財であり、あるいは、祭りや年中行事、民俗芸能といった無形のもの、さらには史跡名勝など多岐にわたります。また、各地で語り継がれていた伝説や昔話、小国地方特有の言語(方言)、旬

の山野食材をうまく加工保存し調理する技術(食文化など、「文化財」といった枠組みには入りきらないものも全て文化遺産には含まれます。

本号からシリーズで、このような、町内各地にある文化遺産について、その主体を成す文化財を中心として紹介していきます。とくにここで注目しているのは、県や町の指定を受けている文化財だけでなく、それ以外の身近にある数々の文化財です。

それらの多くは日常の風景にとけこみ、普段はあまり文化財として意識されることはありません。なかには、地域のかたがたにその存在が忘れられ、あるいは伝承されなくなり消失しつつあるものも見受けられます。しかし、その全てが、かつてそこで暮らしていた先人たちの営



▲泉岡地内からみた長者原地区(2020年3月撮影)

日常の風景のなかに数多くの文化遺産がとけこんでいます。例えば、この一枚の写真の中にも地域の、そして町の歴史文化を物語る文化遺産が写っています。皆さんは、いくつ見つけられますか。

くりや観光の資源となりうる、文化遺産の新たな価値に気づくことができるのです。

コロナ禍で大変な毎日ですが少し気分を変え、数万年前から脈々と小国に流れる悠久の歴史に想いをはせ、地域の魅力を探る旅へ一緒に出かけませんか。

(教育委員会生涯学習室)